

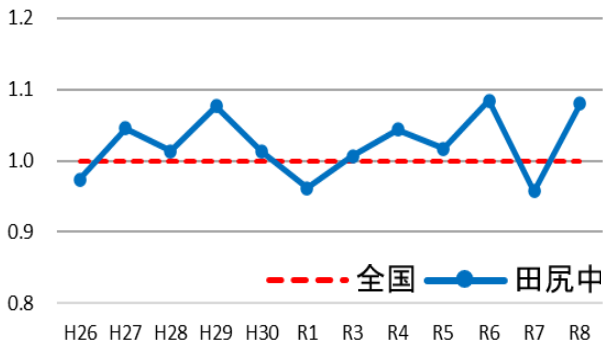
□ 結果概要 全国平均を上回った

全体の平均正答率は全国平均を5.1ポイント上回っており、全国平均を大きく下回る（－5ポイント）設問もなく、全般的には定着が図られている。また、全15問のうち平均正答数が6問以下の生徒の割合は全国平均より5.3ポイント少ない。

一方、全国平均を下回る設問は2問あり、特に「互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめること（話すこと・聞くこと）」に課題が見られた。

□ 正答率の状況（全国平均正答率を1.0とした場合の田尻町の平均正答率）

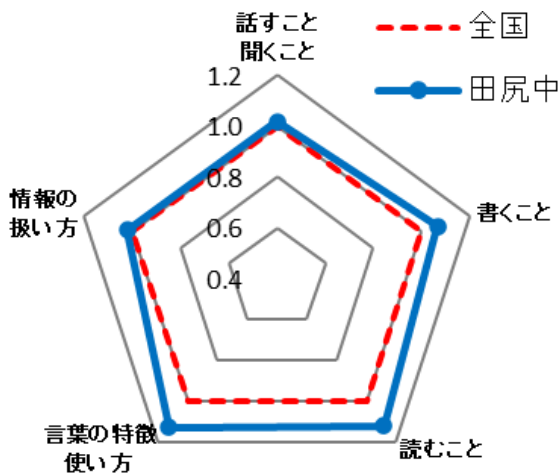
◇ 正答率対全国比 経年変化



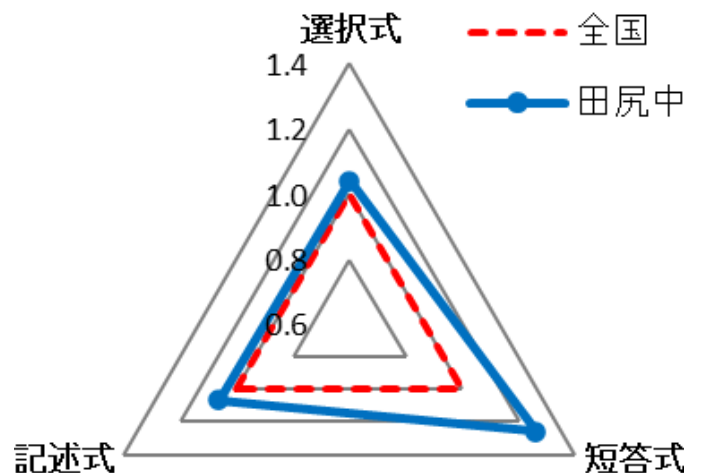
「読むこと」の正答率（対全国比）は3年連続で全国平均を上回り、過去6年間で最も高い。また、前年度課題であった「話すこと・聞くこと」と「言葉の特徴・使い方」に改善が見られた。

「記述式」問題の正答率（対全国比）は2年連続で上昇している。

◇ 正答率対全国比 領域別比較



◇ 正答率対全国比 問題形式別比較



□ 具体的な児童の状況等（○：成果 ●：課題）

○言葉の特徴や使い方(知技) 文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使うことができるかどうかをみる問題について

本問の平均正答率は68.8%であり、全国平均を29.0ポイント上回った。同音異義語について、文脈から意味を捉え、適切な漢字を書くことができる。日々の授業において、学習した漢字を実際の文書の中で活用する機会を継続的に設定してきた成果である。

○読むこと(思判表) 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができるかどうかをみる問題について

本問の平均正答率は50.0%であり、全国平均を11.1ポイント上回った。表現の効果について、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを表現することができる。日々の授業において、文章中の特徴的な表現に着目し、その効果について考える学習活動を継続的にやってきた成果である。

●話すこと・聞くこと(思判表) 互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができるかどうかをみる問題について

本問の平均正答率が48.4%であり、全国平均を4.3ポイント下回ったことから、話し合いにおいて、互いの考えを捉え、見いだした共通点や相違点、新たな提案などを踏まえて、自分の意見を述べることに課題があると考えられる。今後、学習指導に当たっては、他者の考えを比較・整理し、自分の考えを根拠をもって表現する学習活動を行うことが重要である。

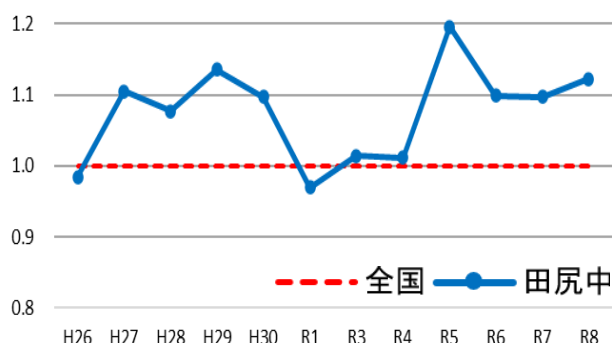
□ 結果概要 全国平均を大きく上回った

全体の平均正答率は全国平均を7.0ポイント上回っており、全国平均を大きく下回る（－5ポイント）設問もなく、全般的には定着が図られている。また、全16問のうち平均正答数が4問以下の生徒の割合は全国平均より7.2ポイント少ない。

一方、全国平均を下回る設問は1問あり、「同類項の意味についての理解（数と式）」に課題が見られた。

□ 正答率の状況（全国平均正答率を1.0とした場合の田尻町の平均正答率）

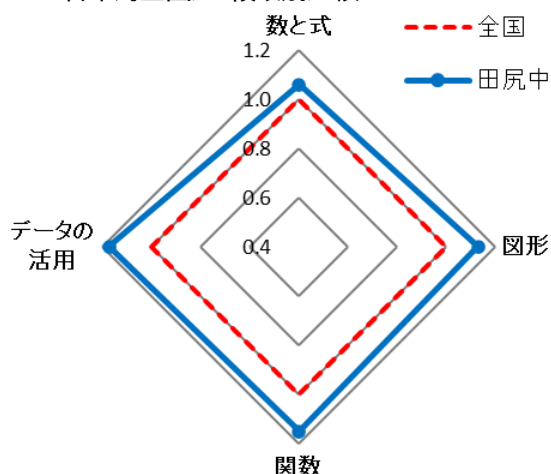
◇ 正答率対全国比 経年変化



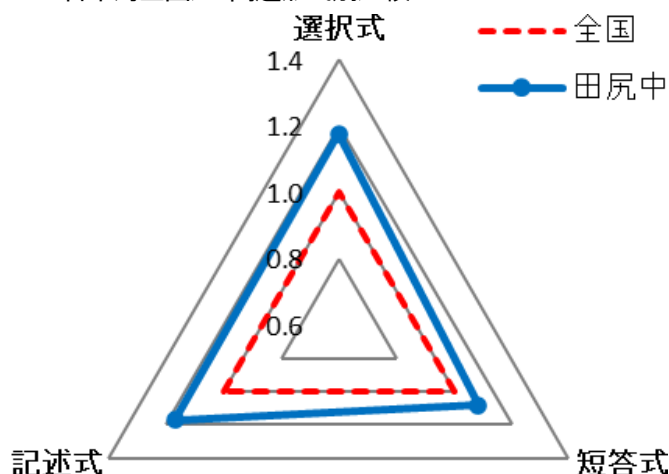
「数と計算」の正答率（対全国比）は6年連続で全国平均を上回った。「図形」の正答率（対全国比）は4年連続で全国平均を大きく上回った。「関数」の正答率（対全国比）は過去6年間で最も高い。前年度課題であった「データの活用」に大きな改善が見られた。

「記述式」問題の正答率（対全国比）は3年連続で上昇している。

◇ 正答率対全国比 領域別比較



◇ 正答率対全国比 問題形式別比較



□ 具体的な児童の状況等（○：成果 ●：課題）

○**データの活用(思判表)**データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することができるかどうかをみる問題について

本問の平均正答率は43.1%であり、全国平均を11.2ポイント上回った。解法の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察することができる。今後も、学習指導に当たっては、一つの事象について、条件を変えたり細分化したりしながら考察し、データの傾向を捉える学習活動を行うことが重要である。

○**関数(思判表)**数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる問題

本問の平均正答率は43.1%であり、全国平均を9.2ポイント上回った。事象における数量の関係を見だし考察する場面において、問題解決の方法について説明することができる。日々の授業において、学び合い活動を通して、解法を説明する場面を設定してきた成果である。

●**数と式(知技)**同類項の意味を理解しているかどうかをみる問題について

本問の平均正答率が69.2%であり、全国平均を1.3ポイント下回ったことから、同類項の意味理解に課題があると考えられる。今後、学習指導に当たっては、多項式や方程式の計算においても、「同類項」を含む数学用語を用いて解法を説明する場面を設定し、数学用語の意味理解を深めることが重要である。

結果概要 全国平均を少し上回った

全体の平均 I R T スコアは 5 1 6（全国の平均 I R T スコアは 4 9 9）であり、全国を 1 7 ポイント上回った。また、I R T 3 5 0 未満の生徒の割合は全国平均より 0. 1 ポイント少ない。

一方、公開問題 2 3 問のうち、全国平均を下回る設問は 6 問であり、特に「社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くこと（書くこと）」に課題が見られた。

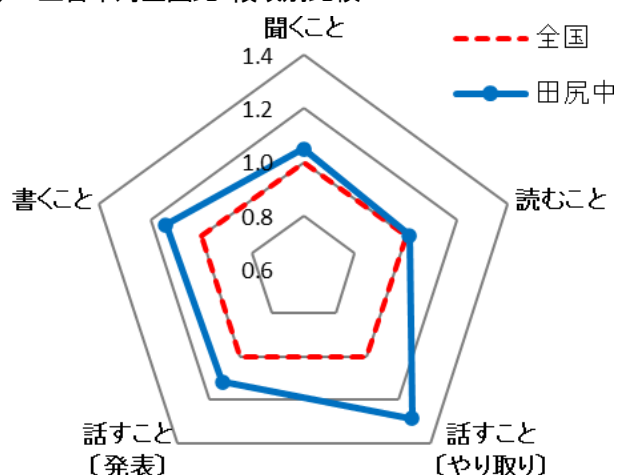
※中学校英語は今年度から 1 人 1 台端末を活用したオンライン（I R T 方式）で実施。I R T とは生徒の正答・誤答が問題の特性によるのか、生徒の学力によるのかを区別して分析し、生徒の学力スコアを推定する統計理論のことである。

※ I R T スコアとは I R T に基づいて各設問の正誤パターンから学力を推定し、5 0 0 を基準とした得点で表したものである。

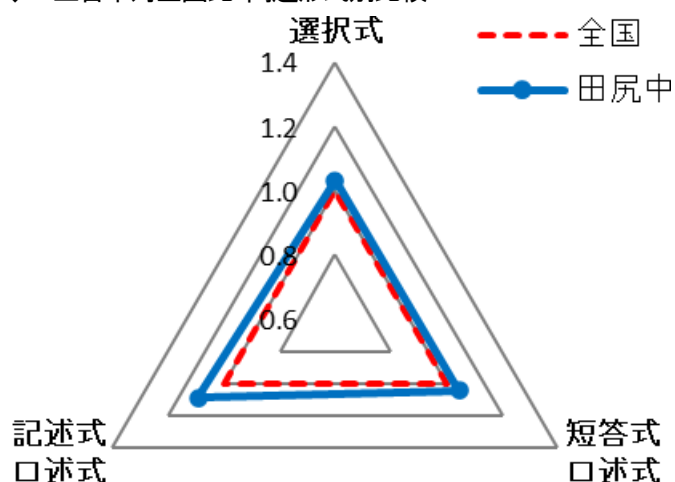
□ 公開問題における正答率の状況

（全国平均正答率を 1. 0 とした場合の田尻町の平均正答率）

◇ 正答率対全国比 領域別比較



◇ 正答率対全国比 問題形式別比較



全ての領域において、正答率（対全国比）は前回（令和 5 年度）を上回った。特に、前回課題であった「話すこと」の領域において、大幅な改善が見られた。

「記述式/口述式」問題の正答率は（対全国比）は前回（令和 5 年度）を下回った。

□ 具体的な児童の状況等（○：成果 ●：課題）

○聞くこと(思判表) 日常的な話題について、話を聞き、概要を捉えることができるかどうかをみる問題

本問の平均正答率は 6 1. 9 % であり、全国平均を 1 8. 1 ポイント上回った。「After」「Finally」等の時間や順序を表す語句に着目し、出来事の流れを整理しながら、話の概要を捉えることができる。今後も、学習指導に当たっては、目的に応じて必要な情報を選択しながら聞き取る学習活動を充実させることが重要である。

○話すこと [やりとり] (思判表) 音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる問題

本問の平均正答率は 4 8. 4 % であり、全国平均を 1 0. 8 ポイント上回った。未来を表す表現「will」や、依頼を表す表現「Can you ~ ?」等についての知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用することができる。今後も、学習指導に当たっては、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを意識し、既習の表現を活用して、即興で自分の考えや意図を使える学習活動を充実させることが重要である。

●書くこと(思判表) 社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる問題

本問の平均正答率が 2 5. 4 % であり、全国平均を 2. 4 ポイント下回ったことから、文章を読み、内容を理解したうえで、文章の内容に対する賛否や自分の意見を英語で述べることに課題があると考えられる。今後、学習指導に当たっては、文章の内容を踏まえて自分の考えをもち、その理由や根拠を英語で伝える学習活動を充実させることが重要である。